

## 第24回和光市個人情報保護審議会会議録

開催日	平成23年3月10日(木) 13:30 ~ 15:18
開催場所	602会議室
出席者	石井彰会長、田辺道雄副会長、佐藤麻由子委員、待鳥美光委員、小野玲委員(以上5名出席) (事務局) 鈴木市政情報課長、田中課長補佐、大塚統括主査
欠席者	本橋淳男委員、渡部治委員
議題	1 和光市災害時要援護者登録事務にかかる個人情報の外部提供について 2 その他
資料	諮問書 「和光市災害時要援護者登録事務にかかる個人情報の外部提供について」 <参考資料> ・別紙1(諮問内容の補足説明資料) ・別紙2「和光市災害時要援護者登録概要について」 ・「和光市災害時要援護者登録制度実施要綱」 ・「和光市個人情報保護条例第10条」(抜粋)

## 1 開会

13時30分開会。

## 2 市長あいさつ

本日はお忙しい中、和光市個人情報保護審議会に出席いただき、ありがとうございます。今回のテーマは、災害時の要援護者の登録事務ということですが、この事務にかかる個人情報の提供というのは全国的に進んできており、和光市は後発となっています。早期の実施を目指しておりますが、本件についてじっくり精査いただき、より良い方法で実施できるようご協力をお願いいたします。

(この後、公務のため退席。)

## 3 議題

(1) 和光市災害時要援護者登録事務にかかる個人情報の外部提供につ

いて

**\* 事務局からの説明（田中課長補佐）**

諮問書「和光市災害時要援護者登録事務にかかる個人情報の外部提供について」が市長から会長に提出されたこと、また諮問書に関する概要を説明。諮問事項は以下の2点。

- (1) 登録制度において、登録希望の有無が確認できない要援護対象者について、外部機関に個別訪問による調査協力を要請する際に、対象者の個人情報を当該外部機関に提供することについて
- (2) (1)について承認いただける場合、和光市個人情報保護条例第10条第2項の規定により、個人情報を提供した事実及びその内容を本人に対して通知することを省略することについて

**< 災害時要援護者登録制度 >**

大地震などの災害時に、自力で避難することができない方を予め事前に登録しておき、実際に災害が発生したときに、事前に登録された近隣の住民に安否確認や避難の支援をしていただくという制度。

登録の方法は、原則手挙げ方式（広報紙等で事前に周知し、希望者を募る）によって行うが、手を挙げなかった方に対しても個別訪問して、登録の意思を確認する「同意方式」を併用する予定。

この同意方式により意思確認を行う際、民生委員等外部に協力を依頼することを検討している。

**< 審議事項 >**

同意方式による意思確認を行う際、外部に協力を依頼する場合、市が保有する個人情報を外部提供する必要があるが、和光市個人情報保護条例第10条第1項により、原則外部提供は禁止されている。ただし、同項の但し書き以下の各号（1～7号）に該当する場合は外部提供することが可能であり、その第7号で、他の条件に該当しない場合であって、審議会の意見を聴いた上で個人情報を使用し、又は利用することに公益上の必要その他相当の理由があり、かつ本人の権利利益を不当に侵害するおそれがないと認められるとき、という条件がある。諮問事項(1)については、この条件に基づき個人情報の外部提供を行えるかどうか判断するため、ご審議いただきたい。

諮問事項(2)については、審議会の意見を聴いた上で外部提供を行った場合は、本人に対してその外部提供した事実と内容を通知する必要があるが、審議会の意見を聴いた上で必要がないと認められる場合は、本人への通知を省略することが可能となっていることから、本人への通知を省略可能かどうかご審議いただきたい。

**\* 担当課からの説明（社会福祉課援護担当森谷統括主査）**

今回の審議対象である、和光市災害時要援護者登録制度における登録希望者を把握するための事務（手挙げ方式による登録希望者を除く制度対象者への意思確認）に関する、個人情報を外部提供する内容の詳細を別紙1に基づき説明。

また、和光市災害時要援護者登録制度について、別紙2に基づき説明。

**\* 質疑応答等**

（石井会長）諮問されたこの制度については、市長からあいさつの中で早期に実施したいという発言がありました。審議会では、本日の会議の進み具合にもよりますが、できれば本日中に諮問に対する答申をまとめたいと思います。

これまで審議会では、答申や意見書としてまとめたということはありませんが、個人情報の有効に活用すべきだという概括的な意見が多かったように感じています。今回の議事は、このような考え方に対して一歩進んで、具体的な問題として、この諮問事項が出てきたように理解しています。

本件について、ご意見がある方はお願いします。

（小野委員）別紙1のウの欄に利用・提供する個人情報として氏名、住所、生年月日、性別、対象該当区分がありますが、民生委員が活動する場合、緊急連絡先が入っていた方がよいと思います。

（森谷統括主査）社会福祉課と長寿あんしん課で持っている個人情報の中に、緊急連絡先が記録されている方とされていない方がいます。そのため、事務の遂行に寄与するということであれば、市で保有する範囲において、載せさせていただくという方向で検討したいと思います。

（小野委員）緊急連絡先が入っていない方に対しては、行政としてはど

のように対応されるのですか。

(森谷統括主査) 個別訪問を想定していますので、住所と名前とでその方の所在はある程度把握できますが、いきなりお伺いしてもお会いできない可能性がありますので、連絡先を把握している方については、事前に連絡してから訪問することを考えています。

(小野委員) 訪問の経験から、緊急連絡先については、お会いしたときには必ずお聞きしています。高齢者の場合には、誰もいない場合については検討する必要があると思いますが、できるだけ緊急連絡先はお聞きするようにしています。

(森谷統括主査) 緊急連絡先については、この登録制度を希望されて、登録される方については、登録時に緊急連絡先をお聞きすることになっています。登録制度の希望の意思確認をするための訪問のための情報提供においては、市で把握している範囲でお入れするようにしたいと思います。

(田辺副会長) 提供いただく個人情報の項目に追加していただけるということですか。

(森谷統括主査) はい。

(田辺副会長) 別紙1ウの欄に緊急連絡先を項目として追加することについて何か問題がありますか。

(森谷統括主査) 特にありません。

(石井会長) 市では、手挙げ方式なり同意方式なりの対象になりうる方については、全ての方の緊急連絡先を把握されているのでしょうか。

(森谷統括主査) 緊急連絡先がある方とない方がいます。

(石井会長) 民生委員としてはその辺はご存知かと思いますが、制度を運用する上で緊急連絡先はあった方が適切な対応が取れるのではないかと、というご意見であると理解します。

災害時要援護者登録制度において調査協力を要請する際に対象者の個人情報を提供することについて、ご意見はいかがでしょうか。

特に問題なければ、この件については承認ということにした上で、審議会としての意見をまとめる必要があればご発言いただきたいと思います。

(小野委員) 告示33号の要綱の件についてですが、第9条に台帳は原

則年1回更新するものとなっておりますが、4、5年してしまうと緊急連絡先の方が転居してたりしますので、1年という短期間で更新するということになると、素晴らしいものができるのではないかと期待しています。

(田辺副会長) 小野さんの意見に関連してですが、原則年1回更新となっておりますが、年度途中で急に体調が悪くなったなどにより登録したい、となった場合などは登録が可能なのでしょうか。

(森谷統括主査) はい。登録は随時可能です。

(石井会長) 必要に応じて随時更新するということですね。

(田辺副会長) 別紙2の2「制度の広報・周知をした後、一定期間（およそ2～3週間）を経ても登録申請の無い対象者」とありますが、2～3週間は短すぎるのではないかと、という気がします。

(石井会長) 手を挙げる期間をもう少し長く取ったほうが良い、ということですか。

(小野委員) わたしは、広報・周知した後であれば、このくらいの期間で良いと思います。広報の仕方、PRの仕方を検討し、全ての方に周知していただければと思います。

(石井会長) 一定期間の期間の問題というより、広報・周知する仕方、その方法ということですね。

(森谷統括主査) 広報・周知の方法としては、広報紙はもちろんのことですが、今は社会福祉課、長寿あんしん課と支援班というグループを立ち上げ、そこで考えている広報の方法としましては自治会単位、あるいは自治会内の班単位で、要望に応じて職員が出向いて説明していくことを考えています。

(石井会長) 別紙2の2につきましては、一定期間の問題、広報・周知が徹底するように、という指摘がありました。その他の点については、民生委員としての経験をお持ちの小野さんは、何かご意見ありますか。

(小野委員) 制度のPR方法について、自治会では会の規模の差などがあり、全ての対象者に十分周知しきれないのではないのでしょうか。民生委員が制度を周知するPR資料を持って回る方がより確実に周知できると思います。

(石井会長) ありがとうございます。諮問事項(1)については、何かご意見はありますか。

（待鳥委員）質問が二つあるのですが、まず、これは登録制度に向けて手があがらなかった人に対して意思確認をするための情報提供ということですよ。そうすると、登録された方の名簿がどういう機関に共有されるかという話は別でしょうか。

（田中課長補佐）今回諮問させていただいたのは、手が上がらなかった人に対して訪問する際に情報提供してよいか、ということです。登録者の名簿は本人の同意のもとに作成されたものでありますので、この名簿を作成するために審議会の意見をお聞きすることはありません。

（待鳥委員）それでは、その登録者の名簿をどのように取り扱うかということとはまた別の問題ということでしょうか。

（田中課長補佐）それにつきましては、要綱の第2条第3項第2号に示された関係機関に名簿を提供するということになります。

（待鳥委員）それと、周知・広報の方法で、対象者には直接制度のお知らせを送るのでしょうか。

（森谷統括主査）対象となる高齢者と障がいをお持ちになっていて、対象となる方に対しては、個別に通知を送付する予定です。

（石井会長）今までいただいているご意見は、諮問事項①を承認する方向での確認として出されているように感じます。その他、ご意見があればそれをいただいて答申をまとめたいのですが。

（田辺副会長）私は、承認して良いと思います。

（田中課長補佐）答申に当たりましては、まず適当であるかそうでないか、でまず答申をいただきたいと思います。それに併せて、10条第1項第7号において言われている、公益上の必要性、また本人の権利利益の不当に侵害しない、といったことが必要条件となっていますので、この2点にかかる部分についても審議会としてのご意見をいただければと思います。

（石井会長）事務局から、このように深いご意見をいただきたいということですので、何かご意見があれば、ぜひお願いします。また、田辺副会長から、諮問事項については、適当である、というご意見をいただきました。

（佐藤委員）個人情報の提供先である外部機関とはどのようなところを指すのでしょうか。

（森谷統括主査）資料でいうと別紙1のオの利用・提供先のところ、現在予定されているのは2団体で、和光市民生委員児童委員協

議会と和光市地域包括支援センターになります。

(佐藤委員) こちらの2団体に限られるということですか。

(森谷統括主査) そうなります。

(佐藤委員) やはり、個別訪問による調査ですから、すごいデリケートな問題で、訪問されるだけで身構えてしまい、精神状態が不安定になってしまう方も少なくないと思います。この2つの団体であれば、分かってらっしゃるので大丈夫かと思いますが、そのあたりは慎重に行っていただくよう行政の方からも進言いただきたいと思います。

(石井会長) ここまでのお話を踏まえて、諮問事項(1)については承認としてよろしいでしょうか。

(佐藤委員) 良いと思います。

(石井会長) それでは、ある程度答申に向けて進めさせていただきますと、諮問事項(1)につきましては、表現は別途皆さんと相談することとしまして、「適当と考える」ということで進めたいと思います。もし、それだけでは足りない、ということであれば、補足事項として追加したいと思いますので、ご意見があればいただきたいと思います。

次は諮問事項(2)について、(1)が承認いただける場合は、条例第10条第2項に基づいて本人に通知することを省略することについてはいかがでしょうか、という諮問になります。

これは、(1)で示された運用するための要件がしっかり守られていることが前提になると思います。

(小野委員) 本人通知は、省いても良いと思います。通知されたが為に、逆に混乱してしまうケースもあると思いますので、まわりが適切にサポートできれば問題ないと思います。

(田辺副会長) 私も通知は省略して良いと思いますが、省略に当たっての条例の根拠条文はどこになりますか。

(田中課長補佐) 条例第10条第2項の但し書き以下の部分になります。ここでは、本人に通知する必要がないと認められるとき、とだけ書かれているのですが、運用上では、省略することにより本人の権利利益の侵害のおそれがないという状態を想定しています。

(小野委員) この制度は高齢の方を対象としているということと、本人を助ける内容のものということから、通知の必要はないので

はないか、と思います。

（石井会長）そうすると、登録制度の精神を正しく理解したという上での通知不要ということですね。

（待鳥委員）訪問したときに、意思確認のために制度を説明されると思うのですが、手を挙げない方の中にはその制度自体を理解できない方がいると思われます。説明した結果分かっていただければ良いのですが、それが難しい方の場合はどのような方法を持って本人の意思が確認されたとみなすのでしょうか。

（森谷統括主査）登録制度の要綱の方ですが、代理の申請も認めるようになっていきます。もちろん、本人が意思表示をできないために登録の意思が確認できない場合は、保護者や周囲の支援者、後見人などにより意思確認を行うことを考えています。

（待鳥委員）本人が制度の主旨を理解しないままに「いらない」と言われてしまった場合などは、それをもって意思確認したことにしてしまうのでしょうか。

（森谷統括主査）そういう部分をフォローする意味を込めて個別訪問があると考えています。本人がいらないということについては、100%意図を汲めるかどうかというところは難しいですが。

（待鳥委員）訪問される方が会話の中で可能な範囲で判断していくことになるということでしょうか。

（森谷統括主査）そうなります。

（田辺副会長）個別訪問により説明を受けた結果、それでも私は登録しない、と言われた場合は登録しないということですか。

（森谷統括主査）そうなります。この制度はあくまで同意を得て行うものです。

（田辺副会長）そうなると、万が一何かあった場合、拒否した方は取り残されてしまうということでしょうか。

（小野委員）そういう方に対しては、民生委員が目を付けていると思います。民生委員が訪問した結果、そういう反応をされる方は記録を付けて、行政に情報提供をしています。

（森谷統括主査）この制度については、登録すれば助けてもらえる、というものではありません。大規模災害が起こったときには、8、9割の方は周囲の協力を得て助かったといえます。周囲の方の地域の情報を下に要援護者が助け出されたりするケ



ースもありますし、逆に要援護者を支援することになっている方が被災して助けにいけない状況も想定されます。この制度は、直接的な支援だけではなく、要援護者の情報を共有する地域の関係づくりを進めるための一つのツールとしてお考えいただければと思います。

(小野委員) 地域で情報を持っていて対応できた一例として、耳の不自由な方に対して、呼びかける際、戸を叩いて振動で相手に呼びかけを行ったというケースがあります。

(石井会長) 年1回の登録情報の更新ということがありましたが、制度の見直しという点について、何かありますか。

(森谷統括主査) まだ運用していない制度ですので、運用した結果、何か不都合な点や改善すべき点があれば、その都度見直しが必要になると思います。

(石井会長) 言い換えると、1回登録制度を作って、年1回更新をしていく中で、必要があれば審議会の意見を聴くなどした上で要綱の改善等を行っていくということによろしいのでしょうか。

(森谷統括主査) 庁内の支援班が防災計画に基づいて組織されていきますので、そういった中で意見がでて適切に運用、見直しが行われていくものと思われます。

(石井会長) その場合、私たち個人情報保護審議会は個人情報の保護という立場で考えていますが、この制度の改善にあたり個人情報の保護という名分を忘れないでいただきたいと思います。

諮問事項(2)について、個人情報を提供するにあたって、その事実及び提供した情報の内容について本人への通知を省略することについて、承認する、であったり適当である、といった表現でまとめてよろしいでしょうか。

(田辺副会長) 通知することを省略することについては良いと思いますが、念のために省略が可能であることの根拠を明確にしておく必要があると思います。何にせよ、ご本人のためというのが大前提になります。

(石井会長) そうすると、諮問事項(1)、(2)については、審議会としては適当であるという意見である、ただし、それに当たっては、田辺さんからご意見いただいたような内容についても吸収していただければと思うのですがいかがでしょうか。

(佐藤委員) ご本人のため、とか守るため、というのは行政サイドでは必要だと思いますが、一方では助けなければいけないけれども、孤独であることの権利であったり、登録制度の利用を断るのも人間の尊厳として守る必要があるんだということを片隅に置きながら、それが善であるということを押し付けになってはならないというところを触れていただくと、私としては少し安心かなと思います。

(田辺副会長) その点を踏まえて、私は本件について個人情報の外部提供においては条例第10条第1項第7号に規定された公益上の必要にあたるのかな、と、むしろ4項の個人の生命、身体又は財産の安全を守るため緊急かつやむを得ないと認められるときに当てはまるのではないかなというふうに思いました。

(小野委員) 私もそう思いました。

(石井会長) 私もそう感じたのですが、事務局の方から説明をお願いします。

(田中課長補佐) 他の市町村の中では、審議会の意見を聴かずに行政の判断で実施しているところもあります。そこは皆さんと同様にお考えになってのものだと思います。当市の考え方としては、登録する前の段階なので、一応平時といいますか緊急ではない、という考え方として、第4項には該当しないと判断しました。地震が発生してしまえば緊急ということになりますが、地震を想定して平時に登録どうですか、という声かけをすることですので、緊急にはあたらないと解釈しました。

(田辺副会長) 難しいですね。

(田中課長補佐) 自治体によって解釈が異なるところであると思います。

(田辺副会長) ただ、今回対象となる方を登録することが公益上必要であるかというところに疑問を感じます。

(小野委員) 公益ではなく個人の利益ですよ。

(待鳥委員) 先ほど佐藤さんがおっしゃられたような個人の尊厳というものに配慮したからこそ、原則手挙げ方式をとったのではないのでしょうか。だから全ての方を最初から名簿に登録したり、全部に同意方式であたるのではなく、まずは原則手挙げ方式により希望者を募り、その中で、制度を理解しない方や周知が行き届かないで漏れてしまう方のための同意方式という

ことなので、個人の尊厳という部分は元々議論の中に織り込まれていたと思っています。そうでなければ、対象者を元々全て名簿に掲載してしまっていたと思います。手挙げ方式を原則としたことでこれは全て善だ、ということではなくて、各人の考え方であったり、思想信条、そういうものに配慮しつつ進められていると思います。

(石井会長) 審議会として、一方の意見に偏りがちにならないためにも、いろいろな意見があったことを会議録に残していかなければならないと思います。

(田辺副会長) 結論としては、答申は両方とも適切である、ということで良いと思います。

(石井会長) そうですね。その他、答申にあたりどうしても付け加えてほしい、という内容のご意見があれば発言いただきたいと思います。

(待鳥委員) 個人の尊厳に配慮しつつ確認作業を進めてください、ということ付記するかどうかですね。審議会が意見すべき部分かどうか、ということもありますが。

(石井会長) 制度の運用の部分ですしね。

(佐藤委員) 諮問内容については、問題ないと思います。ただ、総論として頭に入れておくべきこととして、この問題に携わる方々が、社会的弱者と呼ばれる方々であっても、一方的に守られているという関係ではないということ、どんなに弱い方であっても尊厳という部分は同じ人間として接していくことが必要だと思います。

(小野委員) 基本的に、自分の安全は自分で守る、ということが大前提、自助があつての公助ですので、まず自分の安全は自分で守り、どうしても守れない方はこうしていきますよ、という制度であるべきだと思います。

(石井会長) 非常に基本的な問題で、これからの行政に対する期待を含めて、自主自立という精神が住民にもあるべきだということは大前提であると思います。それを個人情報保護という面に置き換えるのは非常に難しいと思いますが、おっしゃられているところは住民が期待しているところであると思います。

(小野委員) 佐藤さんのおっしゃるとおり、行政が全てやりますよ、というPRだけではだめで、まずは自分でやるという自助を大

前提に提案していかないと、自助を忘れて公助へはいけないと思います。

(佐藤委員)自助というのは、自分のことは自分でしなければならない、ということだと思いますが、ただ自分のことは自分で責任を持ちなさい、ということになるとどうしても個人主義になってしまうと思います。助けられる方は助けられるだけではなく、助けた方もそのことを行うことを通じて助けられた方から何かを受け取っているはずで、その辺の微妙な温度というものも大事にしないといけないのではないか、と思います。

(石井会長)個人情報保護の考え方的一端として、これから行政と向き合うときに必要なこととして、入れておきたいと思います。

諮問事項(1)、(2)については、適当であるということでもとめるということ、付帯事項を入れるかどうかについては、そのような形としては入れずに、今までいただいた様々なご意見を、行政全体として考えるべきでないか、というご意見があったこととしてその内容を会議録に残していただきたい、ということにしてよろしいか、ご意見をいただきたいと思います。

### 全員賛成

(鈴木課長)ご意見をいただいた中で、別紙1ウの利用・提供をする個人情報の内容に、緊急連絡先を加える提案をいただいたのですが、そちらについては加える必要があるかどうか、その点を最終的にまとめていただきたいと思います。

(石井会長)私の印象では、それも入れずに、運用上そのようにしたほうが望ましく、提供する個人情報に入れたほうがいいのではないかという意見があったということを会議録の中で入れる形がいいと思います。

(田辺副会長)緊急連絡先が把握されている方とされていない方がいるということだったと思います。

(待鳥委員)緊急連絡先というのは、本人ではなくて別のところということでしょうか。

(田中課長補佐)緊急連絡先は、本人以外の方の個人情報になる可能性がありますので、市としては提供する情報に含めたくない

いうところもあります。市としては、提供する情報はできるだけ最小限に留めるという考え方が個人情報保護条例の主旨にあります。一方では、情報提供を充実させることで事業の推進に役立つという考え方もあります。この辺は、バランスの兼ね合いが難しいところです。

(小野委員) 提供する情報に介護認定等級や障害の種類及び程度といった詳しい情報を記載するのに、なぜ緊急連絡先が入らないのか、という思いがあります。

(石井会長) 審議会で一致した意見ではありませんが、このような意見が委員から出されたということを記録していただければと思います。

それでは、諮問の答申について、まとめたいと思いますが、諮問された方への答申方法として、まず本日の審議結果を口頭で諮問者である市長に対して会長及び副会長が伝えたいと思います。答申書については後日速やかに取りまとめ、正式な体裁を整えて提出したいと思います。このような形でよろしいでしょうか。

### 全員賛成

(石井会長) 答申書における言葉として、承認、適当、どのような言葉を使用したほうが良いでしょうか。

(待鳥委員) 承認という言葉は、この審議会は承認する場ではないので、違うと思います。審議会としては、適当である、とするのがいいと思います。

(田辺副会長) 審議会として妥当であると判断しました、という表現はいかがでしょうか。

(石井会長) 審議会としましては、諮問事項は妥当であると判断しました、という表現を使わせていただいてよろしいでしょうか。

それでは、改めて整理させていただきますが、諮問書を3月3日にいただきまして、本日、審議会にて諮問事項を審議しました結果、審議会としましては、諮問事項(1)及び(2)については妥当であると判断しました、ということにさせていただきます。以上でまとめさせていただきます。

(待鳥委員) 本日、答申の内容に付いて口頭で説明されるとのことです

が、審議結果の議事録を良くお読みいただくよう申し添えて  
いただきたいと思います。

（石井会長）答申と合わせて伝えるようにいたします。

社会福祉課の森谷さん、会議にご出席いただきありがとうございます。  
ございました。お聞きいただいた意見を戻られた際、この会  
の意見と熱意をお伝えいただければと思います。

② その他について

- ・ 審議会の委員の任期及び次期の委員の選定状況について

\* 報告

（田中課長補佐）前回の会議でお伝えしましたが、現委員の任期が3月  
31日で満了となります。公募委員については、1月末までの  
募集期限で3名の定員で募集したところ、4名の方から応募  
いただき、先日選考委員会を開催し3名を選定いたしました。  
その他、学識経験者からなる1号委員については2名、市内  
の団体の役員からなる2号委員については3名をお願いする  
予定となっており、これから依頼を行っていく予定です。

15時18分閉会  
以上